

# まちなか再生フォーラム「人を活かせば、まちは蘇る」 実施報告

## 【概要】

京都橋大学では、現代GPの2年度目に入り、2006年11月11日に「まちなか再生フォーラム『人を活かせば、まちは蘇る』」をテーマにシンポジウムを開催しました。本学の現代GPでは、地域の人々や学生が現場で学び、提案・改善に取り組む〈臨地まちづくり〉手法に力を入れています。

今回は、中心市街地内の歴史的商店街の活性化を中心に、地域の人々の手による様々な取組に関する情報交換を実施しました。その趣旨の通り、会場を京都市山科区のJR山科駅周辺の文化施設や店舗（5会場）を用い、223名の参加者を得て活発な討論を行いました。

## ●シンポジウムプログラム内容

日 時：2006年11月11日（土）13：00～18：00

場 所：アスニー山科（京都市生涯学習総合センター山科）、  
山科駅周辺の商店街内店舗等（5会場）

参加者：223名（学生：196名、商店街関係者・民間企業・行政関係・一般：27名）

### 第Ⅰ部 基調講演 13:00～14:10

大学と地域のコラボレーション ～商店街は学びのキャンパス～

講師：片寄 俊秀 氏（大阪人間科学大学人間科学部人間環境学科教授）

### 第Ⅱ部 パネルディスカッション 14:20～15:50

私たちのまちなか再生手法を探る ～どうしたら人もまちも元気になるの？～

パネリスト：玉置 敏康 氏（京都市山科区社会福祉協議会事務局長）

森下 伸也 氏（金城学院大学人間科学部教授）

谷口 美智子 氏（特定非営利活動法人 京・流れ橋食彩の会理事長）

和田 登美子 氏（伏見大手筋商店街振興組合理事  
おかみさんの会「あてらの会」会長）

奈良 俊哉 氏（近江八幡市文化政策部文化政策課専門員）

助言者：片寄 俊秀 氏（大阪人間科学大学人間科学部人間環境学科教授）

### 第Ⅲ部 分科会 16:10～18:00

第1分科会：福祉とまちづくり（会場 ギャラリー「すみれ」）

第2分科会：笑いのあるまちづくり（会場 リカーコレクション龍野）

第3分科会：食文化が生きるおいしいまち（会場 スイス菓子「ローズ」）

第4分科会：まちの元気は女性から（会場 味処「はやし」）

第5分科会：文化的景観でまちは蘇る（会場 エネルギーステーション三条店）

## 【シンポジウムの内容について】

第Ⅰ部では、片寄俊秀氏（大阪人間科学大学人間科学部人間環境学科教授）が、「大学と地域のコラボレーション ～商店街は学びのキャンパス～」をテーマに講演を実施しました。商店街を構成する1つ1つの店舗は各々が専門業界の豊富な情報につながっており、すべてが卒業研究テーマになりうること、すなわちそこは「知」の高度集積地であること、店主は物事や人を鋭く見つけ、学生を教育するに足る力を持っていることなどから、学生の学びの場としてふさわしいとの指摘がなされました。



<写真：講師 片寄俊秀氏>



<写真：第Ⅰ部の様子>

つづく第Ⅱ部では、地域の人々が主体的にまちづくりに取り組んでいる事例が報告されました。京都市山科地域での福祉のまちづくり、愛知県や岐阜県等の中京地域でなされている地域の古典芸能を実施してまちなかを活性化されている事例、京都府内で地域資源を活かした新しい食文化創造に取り組むNPO法人の活動、京都市伏見区の商店街内で商店のおかみさんたちの企画による子育て

てステーション運営、滋賀県近江八幡市における文化的景観形成による都市の活性化などの興味深い報告が続きました。



<写真：第Ⅱ部の様子>

第Ⅲ部では、会場をアスニー山科からテーマごとに店舗（5会場）へと移し、話題提供者として本学学生よりテーマに沿った各地での事例調査報告や、助言者を招いてのフリーディスカッションを行う分科会を開催しました。第1分科会では「福祉とまちづくり」をテーマに回想法やユニバーサルデザインなどについて、第2分科会では「笑いのあるまちづくり」をテーマにチンドンと笑いの文化や商店街での落語会の様子、第3分科会では「食文化が生きるおいしいまち」をテーマに京都市や滋賀県近江八幡市での食文化の事例、第4分科会では「まちの元気は女性から」をテーマに舞鶴市や神戸市での女性主体の活動、第5分科会では「文化的景観でまちは蘇る」をテーマに京都市三条通りでのあかり景色やシャッターペインティングの事例が報告されました。各々の会場では10名から20名の参加者を招き、積極的な意見交換が行われました。



<写真：第3分科会「食文化が生きるおいしいまち」スイス菓子ローヌにて>

### 【シンポジウムの成果・今後の事業への反映】

シンポジウムの内容からは、歴史的商店街の価値が確認され、また店舗等を使った分科会の開催などから、改めてまちなかの魅力や発展性が見いだすとともに、大学とまちなかの様々な団体等との連携ができることが分かりました。このような学生の企画参画の体験をベースに、今後はさらに多様なイベント企画、あるいは商店街との信頼関係に基づく商店街インターンシップの試みなどにも、今回のシンポジウムの成果を反映させていきます。